

みらいスケッチ
回収結果
(令和5年4月28日現在)

1 みらいスケッチの回収結果

(1) 調査方法等

本調査は図表1のとおり実施しました。

図表1

調査対象者	長久手市民	
みらいスケッチシートの配布・回収	通いの場、長寿課窓口等において 配布・回収	本市ホームページでの WEB調査
調査期間	令和5年1月4日～2月24日	令和5年3月30日～4月23日

(2) 回収結果

令和5年4月28日現在の回収結果は図表2のとおりです。

図表2

区分	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
郵送による配布・回収	273	273	266	97.4%
WEB調査		41	41	

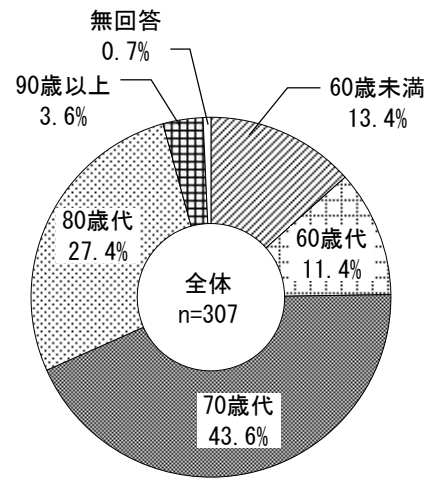
(3) 分析にあたって

- 図表中のn（Number of Caseの略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示しています。
- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が100%にならない場合があります。
- クロス集計の表やグラフを見やすくするため、年齢の比較対象となる項目の「無回答」を表示していません。したがって、比較対象となる項目の合計は全体の合計と一致しない場合があります。
- 複数回答が可能な質問の場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をします。したがって、各項目の比率の合計は、通常100%を超えています。
- 本報告書中の表、グラフ、本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略してある場合があります。

(4) 年 齢

年齢は70歳代が43.6%と最も高く、次いで80歳代(27.4%)、60歳未満(13.4%)などの順となっています。

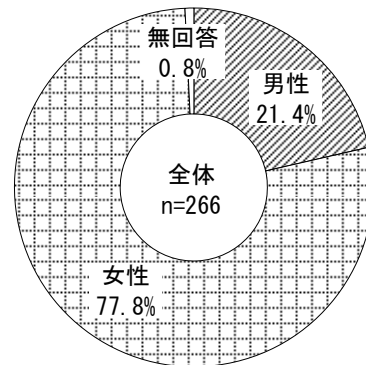
図表3 年 齢



(5) 性 別

性別は女性が77.8%、男性が21.4%です。

図表4 性 別

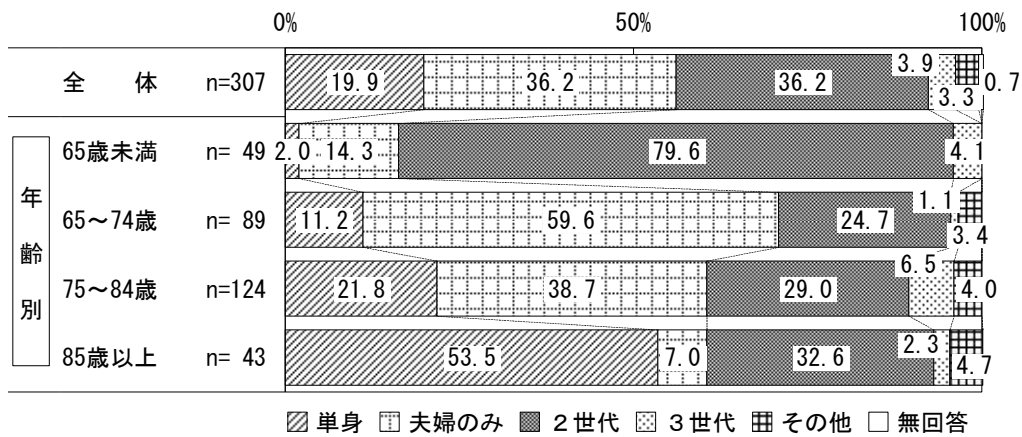


(6) 家族構成

家族構成は、「夫婦のみ」及び「2世代」が36.2%と最も高く、次いで「単身」(19.9%)、「3世代」(3.9%)の順となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「単身」が上昇し、85歳以上になると過半数を占めます。また、65歳未満は「2世代」が80%近くを占めています。

図表5 家族構成

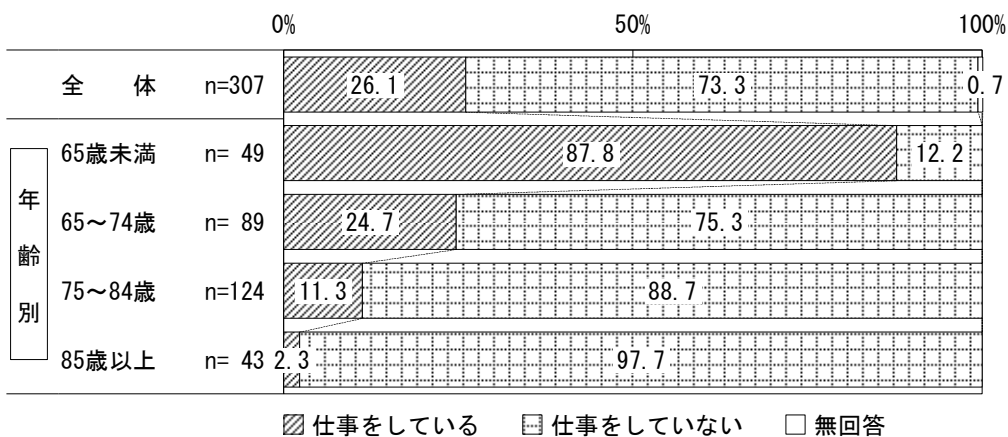


(7) 就労状況

就労状況をたずねたところ、「仕事をしていない」が73.3%を占めています。

年齢別にみると、65歳未満は「仕事をしている」が90%近くを占めていますが、65歳以上になると著しく低下し、その後は年齢が高くなるにしたがい低くなります。

図表6 就労状況

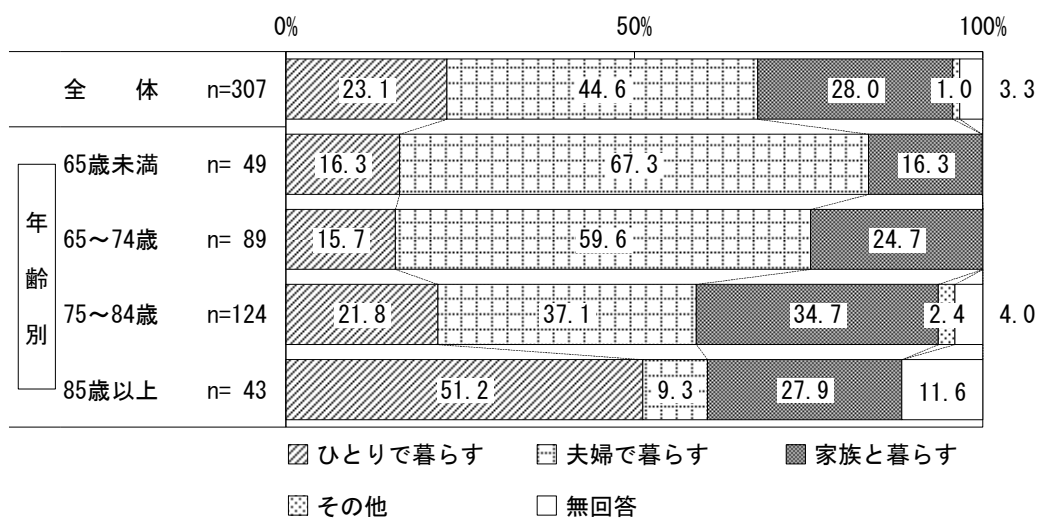


(8) 近い将来、望む暮らし

近い将来、どのような暮らしがしたいかたずねたところ、「夫婦で暮らす」が44.6%と最も高く、次いで「家族と暮らす」(28.0%)、「ひとりで暮らす」(23.1%)の順となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「夫婦で暮らす」が低下しています。また、85歳以上になると「ひとりで暮らす」が過半数を占めています。

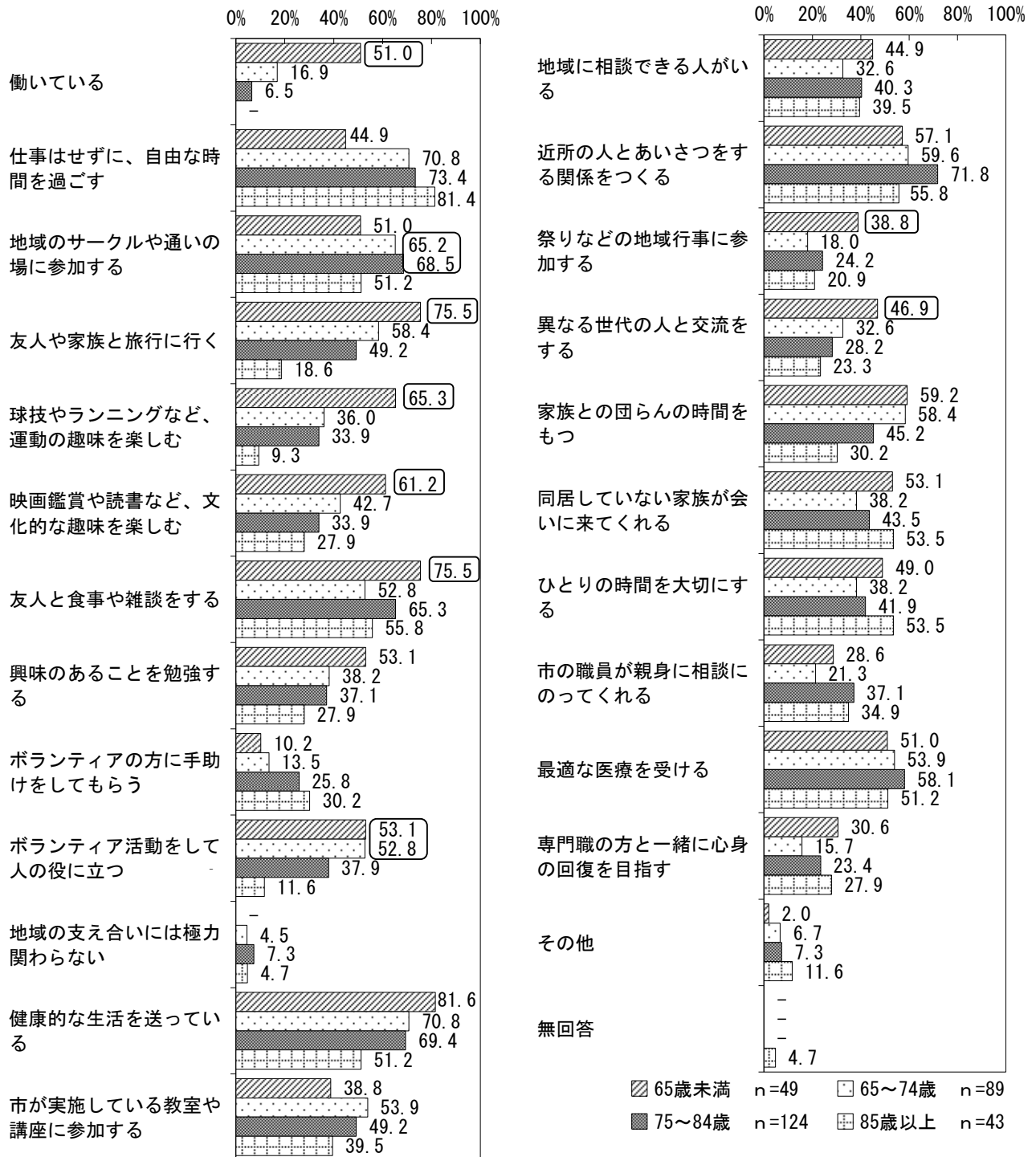
図表7 近い将来、望む暮らし



(9) 近い将来、理想とする姿

将来理想とする姿を年齢別にみると、65歳未満は「働いている」、「友人や家族と旅行に行く」や「球技やランニングなど、運動の趣味を楽しむ」をはじめとした趣味・生きがいに関すること、「祭りなどの地域行事に参加する」及び「異なる世代の人と交流をする」が高くなっています。また、65~84歳は「地域のサークルや通いの場に参加する」が、65歳未満及び65~74歳は「ボランティア活動をして人の役に立つ」が高い率です。

図表8 5年後に理想とする姿（年齢別、複数回答）



2 結果からみえてきたこと

(1) 年齢別にみたまらいスケッチの結果のまとめ

現在、65歳未満の90%近くが仕事をしていますが、65歳になったときに働いていたいと答えたのは50%程度です。退職後は趣味や生きがい、友人との交流をし、余暇の時間を楽しみたいと考えている人が多いことがうかがえます。

65歳未満の若い世代の人たちは、将来、地域に関わっていきたいと考えていることが推測されます。祭などの地域行事への参加だけにとどまらず、ボランティア活動を通じて地域の役に立ちたいと考えており、地域には担い手になり得る人が潜在的に存在していることが考えられます。そうした人たちの活躍の場を職場から地域に移行するためのしくみづくりが必要です。